

若手研究者コラムリレー

中山 紗織（なかやま さおり）



プロフィール

筑波大学体育系助教 コーチング論・トレーニング学領域
日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域: 体育方法, 発育発達, 体育科教育

東京都江戸川区出身

2009年 東邦大学付属東邦高等学校 卒業

2013年 筑波大学体育専門学群 卒業

2017年 筑波大学大学院博士前期課程 修了

(2015-17年 ドイツ・ライプツヒ大学留学)

2020年筑波大学大学院3年制博士課程 修了

E-mail: nakayama.saori.ft@u.tsukuba.ac.jp



わたしの研究

「それは子どもたちのためだから」

スポーツや教育の現場では、こうした言葉がよく使われていると感じています。しかし、その「子どものため」という言葉は、本当に子ども自身の経験や学びに基づいたものなのでしょうか。よくよく考えてみると、それは大人にとって都合のよい実践や制度を正当化するための表向きの理由として用いられている場合も少なくないのではないかと感じます。子どもを主語にして語られているにもかかわらず、実際に何が起きているのか、子ども自身がどのように感じ、どのような影響を受けているのかは十分に検討されていない現状があります。

これまで私は、主にスポーツ実践そのものに着目し、指導内容やトレーニング方法を対象とした国際比較研究を行ってきました。その背景には、私自身のドイツでのコーチング留学経験があります。留学を通して異なる国のコーチング実践に触れ、日本とは異なる文脈からスポーツ実践を捉える視点を得ました。帰国後には、そうした経験や知見をもとに、目の前の子どもたちに適したコーチング方法やトレーニング手段を提供できるようになっていったことを実感するようになりました。

しかし、最近では、実践の背後にある環境やコーチと選手の関係性そのものを問い直す必要性を強く感じるようになってきました。とくに小学生年代では、コーチと子どもの関係性に注目し、「子どものため」とされてきた実践が、子どもの主体性や学びにどのような影響を及ぼしているのかについて研究していきたいと考えています。制度や理念として掲げられる言葉と、現場で子どもが実際に経験していることとの間には、大きなズレが存在すると感じることもあるためです。そのズレの背後にある価値観や暗黙の前提に目を向け、表に現れにくい「当たり前」を問い直すことで、『子どもたちのために』よりよいスポーツ環境を提供することができると考えています。このような研究を通して、子どもにとって本当に意味のあるスポーツのあり方とは何かを探ることが、現在の私の研究の軸です！

わたしの渾身の論文・書籍・記事

中山 紗織, 高松祥平. コーチのサーバントリーダーシップと変革型リーダシップ. 体育の科学75(10): 759-764, 2025.

必読

コーチを育てる立場に立つということ

自律性支援コーチングは、日本のすべてのプレーヤーに対して本当に適したコーチング理論なのだろうか。そんな疑問を抱えたまま、今年度のJSPOコーチデベロッパー養成講習会に参加した。私はこれまでコーチング実践や研究に関わってきたが、「コーチを育てる」という視点から実践的に学ぶ機会にはなかった。講習会では、グループの他の受講者の方々の意見を聞く中で、自分一人では気づけなかった視点に出会い、首がもげるほどの新しい学びを得た。とくに印象に残ったのは、「クリティカルな質問をする」とはどういうことなのか、という点である。対話している相手の話を批判することがクリティカルなのか、あるいはどの程度クリティカルであるべきなのか、私はそれまで、自分基準でそんなふう考えていた。しかし、ある受講者の「自分の発言によって相手が納得したり、メモを取り始めたりした瞬間こそが、クリティカルな質問をしたということなのではないか」という意見を聞き、はっとさせられた。クリティカルとは、対立することではなく、相手の思考を前に進めることなのだ、腑に落ちた瞬間だった。だからこそ、問いの立て方次第で誰かの学びに関われるのではないかと感じられるようになった。

目立った競技成績もない若手の女性という、スポーツコーチング界ではマイノリティの立場にいる私が、コーチを育成する役割に立つことには、正直なところ怖さもある。それでも、この講習会で得た多くの学びを糧に、少しずつでも前に進んでいきたいと思う。

日本体育・スポーツ・健康学会
若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました！→ メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com

